

Book Review

TCH（歯列接触癖）って知っていますか？ あなたの「痛い」の原因はTCHかもしれません

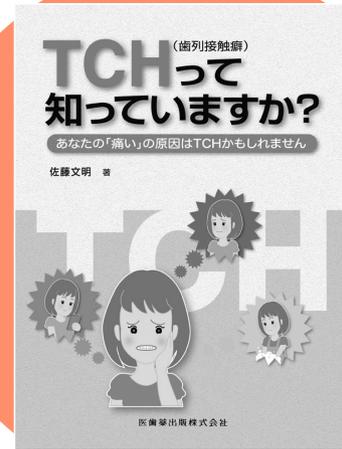
佐藤文明 著



Reviewer

木野孔司 Koji Kino
(木野顎関節研究所所長)

A4 判変, 40 頁
カラー
定価 (本体 3,500 円+税)
医歯薬出版刊



TCH（歯列接触癖）の概念は大分広まってきました。この用語は佐藤先生が、2006年に学位論文をまとめられる際に、当時東京慈恵会医科大学の教授であり、木野とともに論文の共同著者でもあった杉崎正志先生たちと頭を絞って考え出した略語です。

世の中に出て15年近くなり、現在では患者さんが持参された紹介状の文言のなかに「TCH」の文字が入っている、あるいは紹介元への報告に説明なくTCHと書いてもご理解いただける場面が増えています。また私的に開いている木野顎関節研究所ホームページへの問合せにも、開業歯科医の方からしばしばTCHに関する質問が寄せられるようになりました。また、顎関節症に悩む患者さん自身からの質問にも、TCHという用語が使われるようにもなっています。

しかし、いまだに顎関節症に苦しんでおられ、これまでの治療では良くなっていない、あるいはいったん症状が軽減しても再発を繰り返しているという患者さんがおおいです。そういった質問を読むと、その多くがTCHの

ような軽い接触ではなく、強いかみしめを問題視しているように思われます。

このような状況を招いた原因の一つとして、当初学会や講演会あるいは雑誌などでわれわれが説明、指導した概念が、以前から知られている夜間ブラキシズムであるグライディングやクレンチングと同様な範疇に属する、いわば「日中のかみしめ (diurnal clenching)」と捉えられてきたためではないだろうかと考えています。また、開業歯科医の方からの質問では「TCH 是正法を指導したが、なかなか抜けない」といった不満も聞かれます。しかし、その指導法を詳しく問いただすと、きちんとした習癖逆転法になっていないこともしばしば読み取れます。

TCHが世に出て10年以上経過した今日、TCHの影響は顎関節症だけにとどまらず、いろいろな歯科疾患の増悪にも関与することが明らかになってきています。歯周病、義歯性疼痛、舌炎や舌痛症、原因不明歯痛など、日常臨床でもしばしば遭遇する歯科疾患の悪化原因がTCHであったという事例が多くみられています。

しかしながら、患者さんにTCHを見いだしても、その是正がすぐにできるかという点、なかなか難しい状況があります。顎関節症のように疼痛があるなら、是正の動機付けには十分なのですが、たとえば歯周病の例をみますと、動揺度1程度である場合、通常のプロケアとともにTCHの是正を行えば動揺は0に改善します。しかし、この段階では疼痛がないことから、患者さんのTCH是正の動機付けが十分にはできない場合が多くみられるのです。

このような状況を考えると、患者さん向けの本は、まさにこの間のTCHをめぐる誤解を解き、適切とは言えない是正法をわかりやすく解説しています。さらに顎関節症を含む歯科疾患への影響を、わかりやすくいねいに説明してあることから、待合室に置いて来院した患者さんの目にとまるようにすることは、患者さん自身の意識向上に大いに貢献するものと考えます。